

PSLXバージョン3
プロジェクト提案

生産システム見える化展
工場まるごと連携デモ(企画)

製造オペレーション プラットフォーム(MOP)

2014年4月1日

APSOM/PSLX

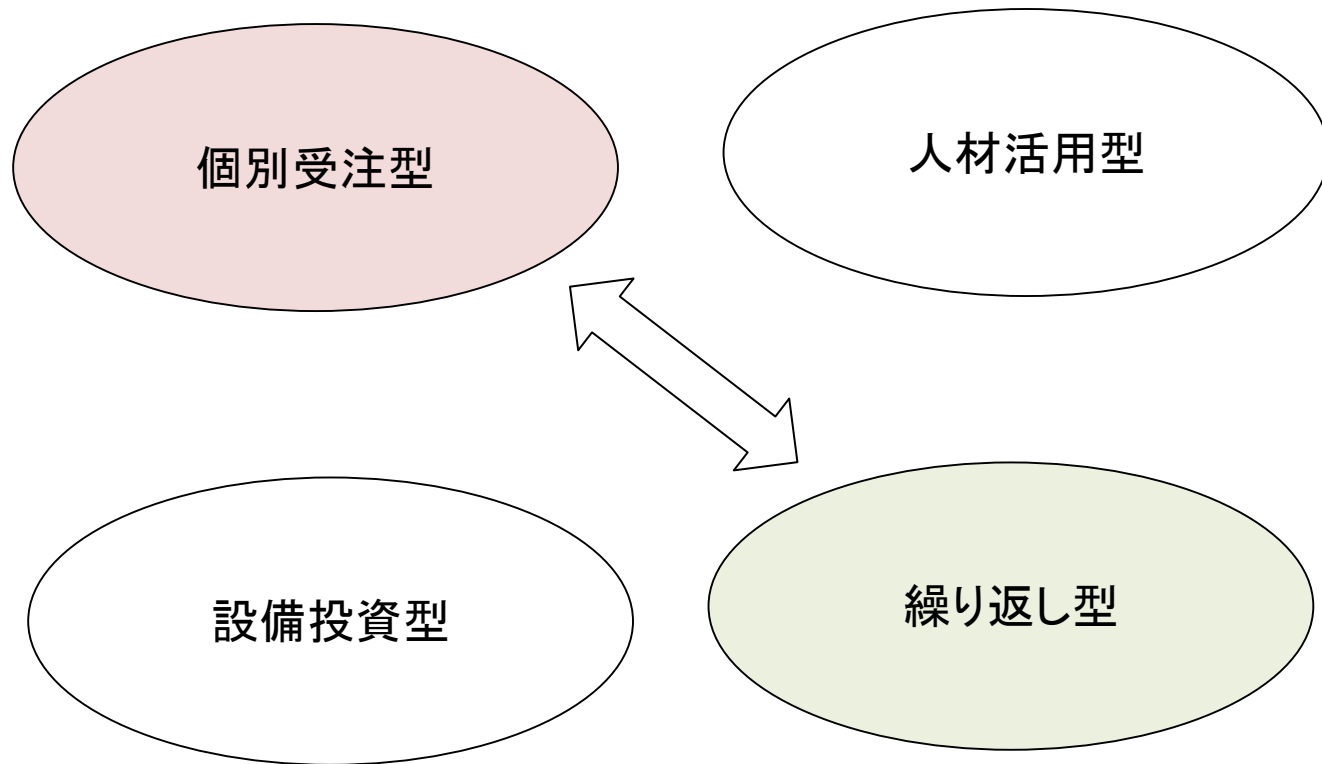
西岡 靖之

PSLX連携フォーラム

対象

- 中堅、中小製造業、または大手製造業の製造部門あるいは製造子会社で、製造現場のオペレーションを、できるだけ少ない投資によるITを用いて効率的かつ柔軟に行ないたい企業
- 製造現場にて利用するソフトウェアを販売するベンダーあるいはそれらをインテグレーションするSIerやコンサルタントで、常に変化するニーズにきめ細かく対応したい企業。

対象企業の大分類



背景

- 製造現場で利用するソフトウェアの場合、製造方法の独自性を考慮するために、個別の作りこみが多く、生産性が低いと同時に、継続的なメンテナンスの障害となる。
- 中小企業あるいは海外展開した工場では、高度なシステムよりも、安価で組合せ可能なシステムを用いて6割の満足度で利用するほうが現実的
- インテグレーションでは、最終的に誰が品質に責任をもつかを明確にする必要がある。オープン標準はビジネスベースの推進団体が必須。

目的

- 製造オペレーション管理に関連する情報システムの標準仕様としてPSLX3を定義し、それにしたがってコア部を製造したソフトウェアのインテグレーションコストを下げる。
- PSLX3を採用したソフトウェア製品およびインテグレーションツールを充実させることで、トータルなシステム構築、運用コストを下げ、製造業の競争力向上を図る。

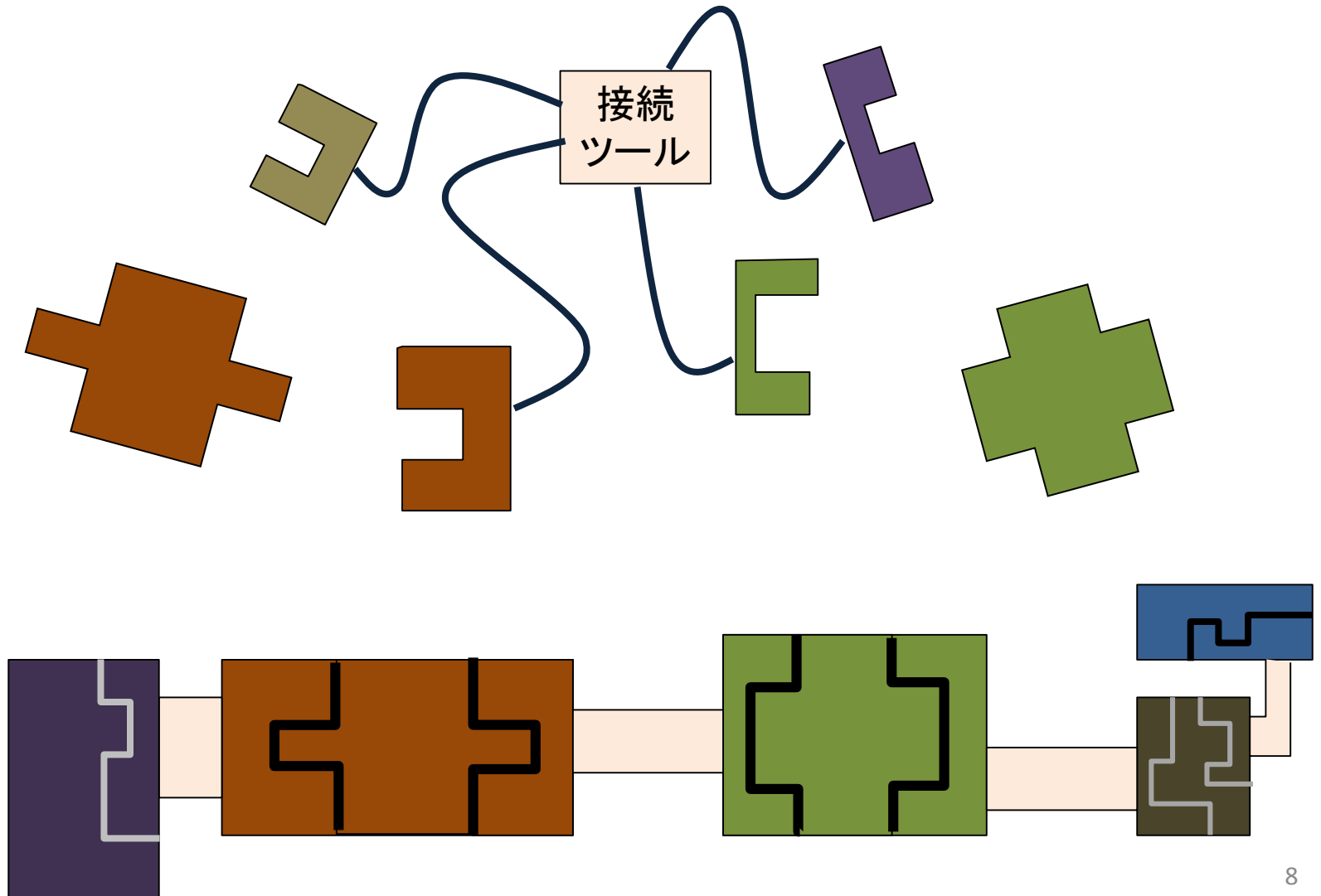
オープンポリシー

- PSLX3仕様は公開とし、その利用にあたっては無償とする。仕様の所有権はAPSOMが保持する。
- PSLX3に対応したソフトウェアは、そのインタフェースを公開とする。ソフトウェアの品質はベンダーが管理する。(APSOMは認証)
- PSLX3仕様の決定は、他の標準との整合性やエンドユーザーの利便性を第一として行う。特定ベンダー仕様に依存しない。

仕様決定にあたっての方針

- 共通部分の抽出
 - カスタマイズを前提とする。プラグインを求めない。カスタマイズは足し算方式。
- 実システムから抽出
 - 実際に存在するシステムをベースにモデル化する。理想形を追わない。
- 無理に決めずにブランクとする
 - 独自に設定した部分は、公開する(公開方法を指定する。)
- 複数仕様の共存
 - 1つの共通仕様に集約させない。いくつかのオプションを残すこともありとする。

どうやって使うのか？



何を決めるのか？

- 概念データモデル
 - E-Rモデル
 - アクティビティモデル
 - 業務フローサンプル(テストケース)
- 物理データスキーマ
 - RDB用
 - CSV用
 - JSON用
- データ連携プロトコル(例示)

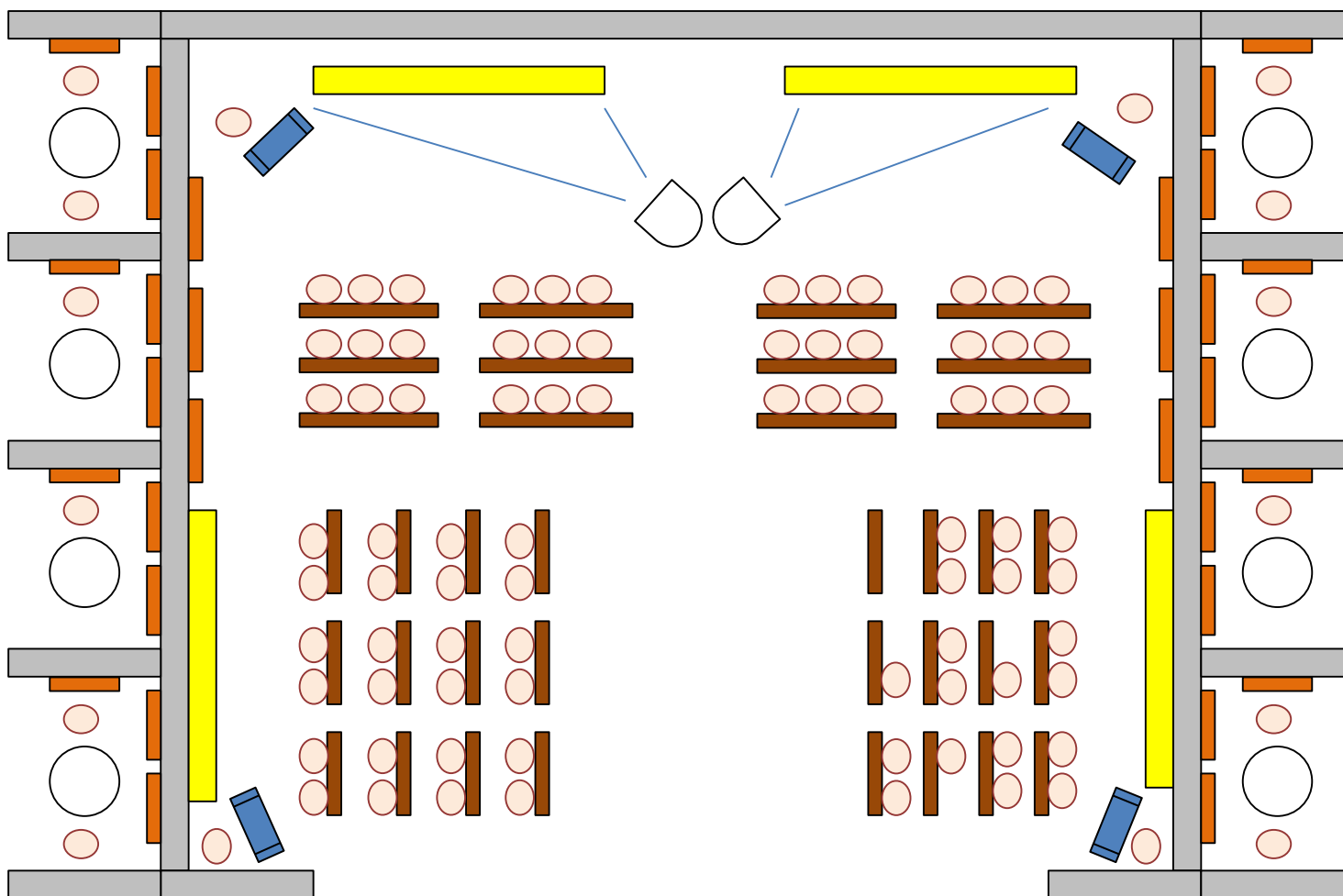
粒度とスコープ

- スコープは業務アプリケーション間
 - 業務アプリケーション間で連携が必要な場合を想定。実装上のソフトウェアコンポーネント間、ロジック間などは対象外
 - アプリケーションと技術DB、実績DBなど外部DBは対象となる
- 最小単位は業務アプリの機能モジュール
 - 対象粒度は、業務パッケージ単位でなく、業務アプリの機能(モジュール)単位
 - 機能モジュールとは、開始後一連の処理が終わり、保存可能なデータのアウトプットが得られるまで

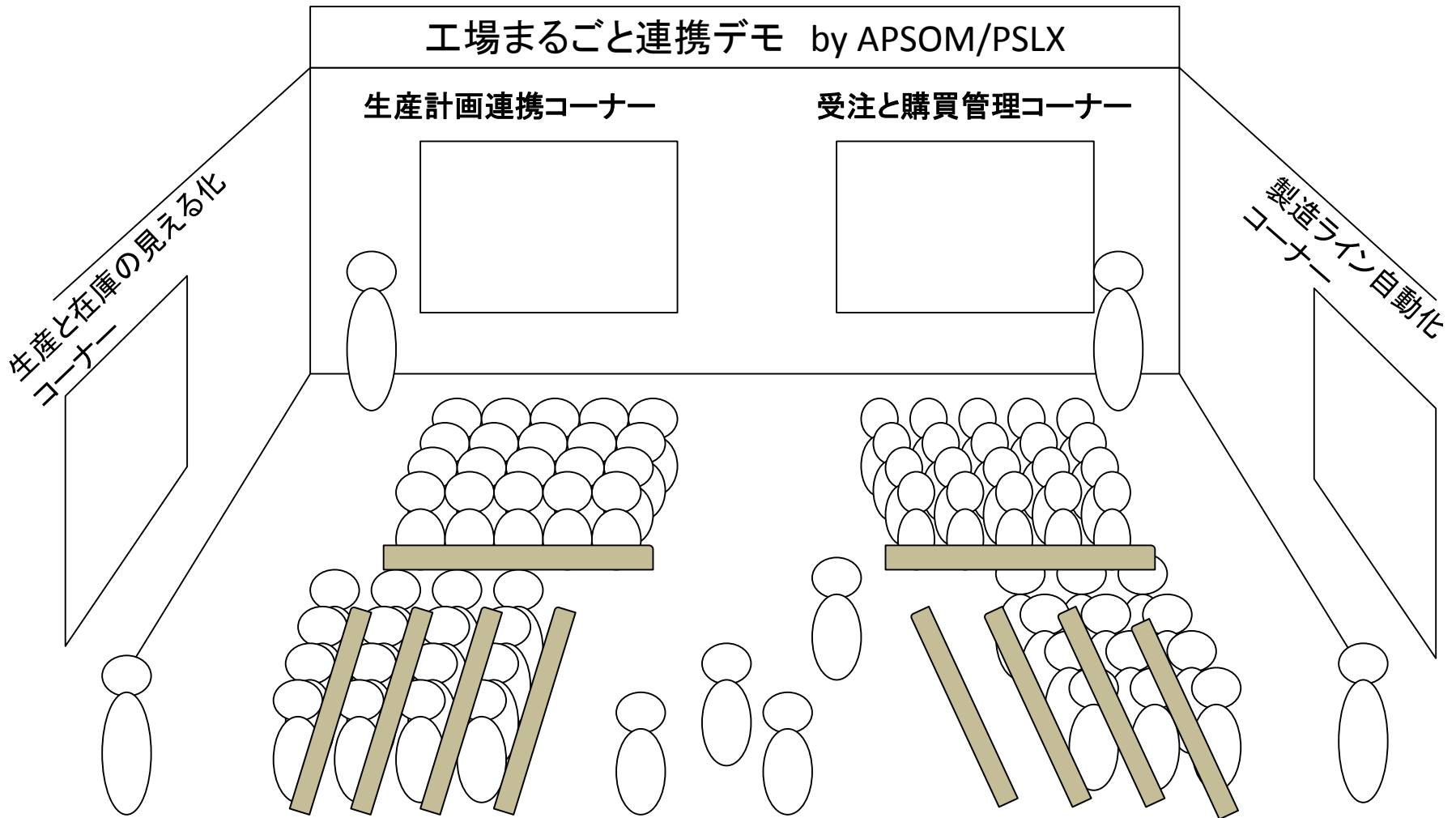
提供するもの

- 製造オペレーション連携ガイド(一般公開)
- PSLX3仕様書(一般公開)
- PSLX3実装の手引き(一般公開)
- PSLX3物理スキーマ(参加企業のみ)
- PSLX3接続テスト環境(参加企業のみ)
- 連携デモ仕様書(シナリオ)(参加企業のみ)

連携デモ(見える化)



連携デモ(見える化)



タイムテーブル

11月13日(木)、14日(金)

フォーラムメンバーが
レクチャー1~8のいず
れかを担当する

レクチャーでは、
製品の宣伝ではなく
ためになる知識を
提供する。

	受注と 購買管理	生産計画 連携	生産と在庫 見える化	製造ライン 自動化
10:00				
10:30				
11:00	レクチャー2		レクチャー6	
11:30		レクチャー4		レクチャー8
12:00	連携デモ			
12:30	連携デモ			
13:00	レクチャー1		レクチャー5	
13:30		レクチャー3		レクチャー7
14:00	レクチャー2		レクチャー6	
14:30		レクチャー4		レクチャー8
15:00	連携デモ			
15:30	連携デモ			
16:00	レクチャー1		レクチャー5	
16:30		レクチャー3		レクチャー7

11月12日(水)は、日本機械学会共催セミナーを企画中です。 14

今後の予定

- 4月 説明会、参加企業
- 5月 キックオフ、仕様書公開&レビュー
- 7月 仕様書FIX、実装環境の提供
- 9月 接続テスト(1日程度)
- 10月 シナリオ打合せ
- 11月 見える化展、連携デモ
- 12月 フォーラムの拡大(APSサミットにて)

連携フォーラムの参加費用は徴収しない。非会員は10万円。
見える化展での出展の場合は実費(35万円程度)